



# 石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和7年7月3日

第4号

## SDGsを考える

校長 山田 美鈴

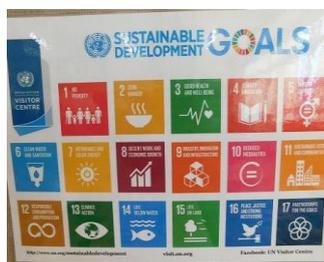
本区を含め様々な自治体で給食費無償化となりましたが、本来ならば今年度1食分の給食費は練馬区では403円。国から補助金が下りているのでそれでも安価にはなっています。昨今の物価高騰のあおりは学校給食にも影響していますが、何とか栄養価を落とさずおいしい給食を提供したいと、本校栄養士は毎日工夫を凝らし、心を配っております。何より給食後に食缶が空になって戻ってくるのが、調理に携わる側にとって最高の働き甲斐となるものです。

本校の給食残食量調査結果を調べてみると、昨年度1年間で給食費に充てられた全校生徒分の金額は約4860万円。残菜は平均して毎日10%ほどあるようですので、それを年間換算すると約460万円を無駄にしている計算となります。金額がすべてではありませんが、世界では飢餓が原因で亡くなる人々は毎日約2万人で、そのうちのほとんどが子どもたちです。特に5歳未満の子どもの死亡者数が多く、栄養失調が主な原因となっています。また世界の子どもの4人に1人に相当する約1億8100万人が重度の食の貧困状態であり、健康とはかけ離れた状態で生活しています。家計への負担が無くとも、世界中の食について実態を知るとともに、改めて食に対する感謝の気持ちをもってほしいと願っています。

さて昨年度まで本校では前向き給食を行っていましたが、給食試食会に参加された保護者の方々から「班で向かい合って楽しく給食を食べた方がよいのではないかな？」というご意見を多数いただきました。また前年度後期給食委員会で全校生徒向けアンケート調査を行った結果、前向き給食を希望する意見より班ごとに食べたいという意見の方が上回っていたため(約75%)、今年度前期給食委員会が「ワクワクランチタイムルール」を定めてグループ給食を開始しました。喫食方法を変えたことで残食量がどのように変化したのかはまだ数値で正確に表せてはいませんが、教室を巡回して様子を見る限りでは、とても明るく楽しそうに会話が弾み、食も進んでいるように見受けられます。1学期末考査最終日は特にホッと一息つけたためか、どの教室の食缶もほぼ空になっていました。

生徒たちにはこれからの未来に向け食を通してだけでなく、気候変動であるとか、貧困問題、感染症など様々な角度から自分たちの未来を展望してほしいと願っています。

SDGsが国連で採択されて10年が経ちました。2030年までに貧困・健康と衛生・エネルギー・環境・平和など17種類の目標について、世界共通で取り組み解決していこうというものです。この発端となる会議で当時注目を浴びたのが、当時南米ウルグアイの大統領だったホセ・ムヒカ氏でした。彼は大量消費社会を批判し、真の豊かさとは何か?を問い続け、自分の給料のほとんどを慈善事業に寄付し、小さな農場で暮らしつつ貧困対策やエネルギー問題に向き合いました。彼は「貧乏とは欲が多すぎて満足できないこと」との言葉を残し、自らSDGsを体現し示してきた偉人です。



持続可能な未来のためには、今私たちができることを探し、地道に行動していくことこそ何よりの近道なのかもしれません。少しでも節電を心がけること、残食を減らしていくことなど、一人一人の些細な行動こそこれからの社会に大きな影響を及ぼしていくことを自覚し、日々の生活を送っていききたいものです。